

おわりに 学生諸君へ ー期待と呼びかけー

大学の自己評価運営委員会は、2 年を 1 期として本学の自己評価を行っている。今期(2011, 2012 年度)の委員会は、『学生元気育てる大学』をめざす現状と課題ー学生の活動力・就職力・学業力を高めるためにーをテーマとして検討を重ねてきた。その中で、現状は学生の「元気」がないというわけではない、本学の学生はさまざまな活動をしているという認識とともに、今後さらに「元気」を高めていくためには大学としての施策を明らかにするだけでは足りない、学生の「元気」をさらに高めていくために学生一人ひとりに呼びかける必要があるということで一致した。

委員会としては以下の呼びかけを別刷りとし、大学の学生支援窓口の一覧などを付して、学生全員に配布し、学生が「元気」を発揮した学園とするためにそれぞれのできるところから積極的に活動を進めることを期待する。

<学生諸君へー期待との呼びかけー>

学生の「元気」あふれる工学院大学にしよう ー充実した大学生活のためにー

大学生活の経験がこれからの人生の力となる。だから君がせっかく入学した工学院大学での大学生活を大事にし、充実した意義ある大学生活を送ることを期待している。大学生活には、友人や教員との交流や語らい、クラブやサークルなどの自主的活動、各種のボランティアへの参加などとともに授業その他の学修活動も含まれる。

このため大学として、また教職員として以下の点を君に呼びかけたい。具体的な取り組むことは一人ひとり違ってよいし、1 年後には別の課題に取り組むかもしれない。いま自分に必要と思われること、興味をもって取り組むことができるものでよいのだ。そのことが充実した大学生活とする一番の早道となる。

一人ひとりが充実した大学生活を送ることが、大学として学生が元気な学園になる道だろう。このことが卒業後の社会生活に踏み出すことができる自信を付けることになるだろう。

1 大学時代に友達をたくさん作ろう。ともに学び、何かに取り組み、互いに信頼し助け合うことができ、いろいろな悩みやこれからの人生について話し合える友達は、君の人生にかけがいのない存在となる。クラブ、サークルや学生プロジェクト、卒研の研究室仲間その他さまざまな活動に参加することで一生つきあうことができる友達ができ

るだろう。

2 自分のいいところ、長所をつかみ自信を持とう。それには新しいことにチャレンジすることだ。だれもがはじめてのことは自信が持てない。しかしチャレンジするなかで少しずつ目標に近づき、自信が深まる。この経験はその後の人生の中で必ず生きてくる。自分のいいところをつかむには、友達との交流や話し合いの中で、あるいは教員との話の中で明らかになることも多い。

3 クラブ、サークルや学生プロジェクトなどの活動に積極的に参加しよう。これらの活動によって学園祭などのイベントを充実させることができれば、大学全体に活発な雰囲気広がっていく。これらの活動に参加したことは、それぞれの人にとって大学生活の中で経験したキャリアとなる。それらは就活などで自信を持ってアピールできるものである。

4 卒業後の進路について早くから考えよう。一旦就職したら絶対にやめてはいけないということはない。しかしできることなら自分のしたいこと、適している仕事を続けていきたい。就職や起業、NPOなどで活動することのほか、大学卒業後、大学院進学や留学、あるいは資格を取るためにさらに学修することも選択肢となる。大学時代に学んだこと、経験したことを踏まえて進路がはっきりしていればよい。

5 勉強に一生懸命取り組もう。大学は学生が主体的に学修する場である。これは時間の長さのことだけではない。自分が学びたいことに取り組むこと、卒研などに全力を尽くすことなども大事なことだ。また授業の中で発表の機会があれば積極的に取り組んでほしい。しっかり勉強した経験と実績はこれからの人生の中で力を発揮するだろう。勉強で友達や先輩、先生の力を借りるだけでなく、できる事があれば君も誰かを助けてほしい。

6 大学や先生をうまく「利用」しよう。さまざまな困難を抱えていたり自分では自覚していないが他人の助言などが大きな力となる場合も少なくない。大学には、学習支援センター、情報教育研究センター、図書館の他、学生相談室、健康相談室やハラスメント相談員を設けている。大学生活については各学科の学生生活委員のほか、学生支援課、学習支援課などが君の相談にのることができる。また「お気に入り」の先生に相談してもよい。大学は君の大学生活を充実させることができるようサポートの用意があることを知っておいてほしい。